

園長だより

前号まで劇についてふれてきましたが、今回は少し離れ絵本について、ふれていきます。

絵本の大切さや良さについては世の中に多くの専門家が説いていますので自身の生活体験の中から絵本について考えていければと思っています。

活字離れ

便利な世の中になり、不自由を楽しむ、不便さを楽しむことも少なくなってきました。知恵を出し工夫して生活を営むより、便利な生活が時間の使い方さえも変化させてしまいました。便利さ、豊かさには感謝しつつも、この便利な世の中が昔からの大切なものを奪っています。

活字離れ、若者の活字離れが十数年も前に言われていたことを記憶しています。

卒論はインターネットから引き出し、いわゆるコピー、レポートも該当する内容をネットで検索、手間暇かけず、思考せず、苦勞せず、学習に向き合う、こんな時代になっています。実直に学んでいる学生もいるものの、あとを絶たない現象です。

最近では低年齢にも同じ状況がみられ、小学校での自由研究もネット検索で済ませる児童もいると言われます。私が古い考え、思考の持ち主なのはわかりますが昨今の状況は驚かずにはいられません。

小学校でも考える、読む、書くの能力低下が指摘されています。

未来を担い子ども達の現状を教育界は修正しようと様々な試みをしています。

大切にしたいもの

絵本の良さ、再び

保育園に通う、子ども達、この世に命を賜り、数年、便利な世の中が大切な多くのものを奪おうとしています。人間関係、コミュニケーション能力、強刺激依存(ゲーム、スマホ、ゲームセンターやテーマパーク)、言葉の獲得の遅れ等、影響が少なくないのが現状です。

どの子も一度や二度、いや十度と言わず百度それ以上読んだ、読んでもらった(もらっている)ものが絵本です。

鎌ヶ谷市では十数年前から「ブックスタート」の事業をはじめ、絵本を通じて親子のコミュニケーションづくりを応援するため4か月児健康相談で絵本の読み聞かせや絵本の提供をしています。

子ども達の発達、育ちには絵本が欠かせないことは言うまでもありません。

体験を通じて 人と人をつなぐ

私には二人の子どもがいます。もうすでに社会に出ている年齢です。20年以上前にはなりますが絵本についての体験を回想していきます。

息子のお気に入りの絵本は数冊ありました。絵本の読み聞かせは主に母親がやっていましたが、時折、私の出番がまわってきます。

記憶に鮮明に残っているのが童心社の「おさじさん」、松谷みよこさんの「いないいないばあ」、あかちゃん絵本シリーズの1作です。



おやまをこえて のはらをこえて

おさじさんがやってきました。

おいしいものはありませんか

おくちにはこんであげますよ

赤柄に手足がはえた「おさじさん」がやってきておはなしがはじまります。



ちょうど離乳食を終え、もぐもぐ、パクパクと食に

対しての意欲が出てきている時期です。そして、自分でスプーン(おさじ)を使い、自由気ままに、周囲を汚すこともいとわず振舞っている時期です。

絵本の内容、文章が実に優しく、目の前にいる息子の育ちにマッチし幾度と読み聞かせた記憶があります。

絵本にはうさぎがでてきとおかゆをたべようとする。手伝ってあげようとするおさじさんを断り、やけどをしてしまい泣いてしまうことになります。

食卓で味噌汁やスープなど「ふーふーしてあーん」などと熱いものの食べ方を教えている時期にも「おさじさん」の絵本は大活躍、食卓にもかかせない絵本となっていました。

その後、大きくなっても大好きな絵本として現在も我が家に居続けています。表紙はぼろぼろ、所々に落書きがあります。ぐるぐるとぬたくり、

落書きをとがめず、理由を聞いた記憶が思い浮かびます。息子は「おさじさんの友達をかいたの」と、落書きの思いを言葉にしました。

絵本を好きになることは、絵本を媒体に関わる多くのものを好きになること、おかあさんも好き、お

母さんのつくる料理も好き、ご飯を食べる自分も好き、一冊の絵本が家族をつなぎ、その時期の息子の成長に大袈裟ではない、影響を与えてくれていました。

困らせることも しばしば

もう一つは娘です。ノンタンシリーズ(偕成社)、数十冊あるものを連日、就寝前に読破させられることです。これも私は時折の出番でしたが、一種、修行のごとき、出版からアニメ化、CDなども出て一躍、キャラクター化されてしまいました。主人公のノンタンが巻き起こすことに、ハラハラ、ドキドキ、また歯磨き、おねしょなどの生活習慣を教えるもったりと活躍した絵本でした。

シリーズ数十冊を読んでもらい眠りにつくことがしばらく、いや習慣化してしまい、読み手の大変さは増すばかり、時に大人のずるさから文章を間引いて読んでしまったり、ページを飛ばしたり、でもすぐに反応、しっかり読んでとせかされます。

字も読めず、言葉の表現がままならない娘でも絵本の内容は十分理解していました。

ノンタンの絵本も母親の膝の上で丁寧に読み聞かされ、その時間、空間が何よりも心地良かったのでしょう。時間をかけ、丁寧に関わり愛情をそそいでもらったことが母子の安定した関係を築くものになっていきました。

絵本との出会いは永遠のもの 絵本を通じて人と生きていくすべを学んでいくもの、幼い時に育まれた心は大人になっても持ちあわせます。

絵本の良さを再び、1冊の絵本が心をつなげてくれます。

(園長 廣部 信隆 12)